

とある部屋より

コンバット越後

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

とある人のとある部屋にて起こっているかもしれない玩具とプラモデル（ガンプラ）とフィギュア達による雑談劇。

基本見切り発車でかつぶつ飛んだ内容になってるかもしれない。

※出てくる奴らは全員おもちやかフィギュアの類です。そのため一部原作どころの話ではない奴らがいますがそれは赤の他人です。

※一応、ガンプラが他より多めにでてくるためガンダム原作なのでしょうが、ぶつちやけガンプラ以外ガンダム要素が全くと言っていいほど無いので、半オリジナル作品として扱ってください。

プロット版

目次

## プロット版

? 「…ん、ここは？」

?? 「お、気がつきおったか。」

? 「…あなたは？」

トライオン（以下T）「あ、ワイか？ワイの名はな、トライオン3つていうねん。親しみを込めて『最強機動トライオン3』って読んでくれや！」

? 「…長いよ」

T 「…んなことはともかく、あんさん名は？…あ、もしかして武装神姫とか言う奴？」

?? 「チガイマス」

T 「んな、はつきりと強く否定せんでもええやん…」

F A G 轟雷（以下F G）「…改めて、私の名前はF A G 轟雷。正確に言えば、フレームアームズ轟雷の擬人化したものを…」

T 「それ以上は長くなりそうやし、大方把握はしたから言わんでええで…」

F G 「案外、理解が速くて感謝します。…所で、ここは？…まあ私を購入したマスターの部屋でしょうが。」

T 「ピンポーン！大正解や！」

F G 「で、なんで私達、デスクに飾られているんですか？こういうのって、普通セット組みませんか？もしくは飾り台。」

T 「意外と鋭いんやな…。それはな、この部屋見ればなんとなくわかるやろ？」

F G 「ものの見事に汚部屋ですね」

T 「せやな。だから組もうにも置く場所がない。ついでに、色々めんどくさい。せやからスペースがあって、落とす心配の少ないここについてわけらしいで。」

F G 「なるほど…、バカですねこのマスターって。」

T 「ああ、バカやな」

??? 「まったくだな！」

FG 「誰ですかあなた。」

T 「：五月蠅いっていわれるで、先輩。」

ダブルオー（以下OO）「んなこと、別にいいじゃないか！俺はダブルオーライザー！よろしく！」

オーライザー（以下OR）「僕は一応別なんだけどな…あ、初めまして、オーライザーです。この僕がくつついているダブルオーガンダム。まあOOでいいよ。これからよろしく。」

OO 「さて、新人君たちよ！何を話しているんだい！なんか悩みかい！あつたらどんどん聞いてくれ!!」

T・FG 「いえ、ないです。」

OO 「おうふ。」

OR 「まあ、いいことだよ。」

FG 「：所で、トライオンさん、あなたもここに来たのは最近なんですね」

T 「せやで。と、言ってもワイ、発売自体が最近（※）やし、発売日に買われたから仕方ないんてんもあるんやがな」

FG 「そうですか。」

OO 「所で、その無愛想な君、説明書見させてもらったけど、なんか君の元になったの、俺の知り合いに似ている気がするんだが…、なんかご存知かね？」

T 「そういえば、なんか君。ワイの妹に似てるな」

FG 「妹いたんですか。」

T 「なんやその、あんたあからさまに一人っ子やろ的発言。」

FG 「まあ、似ているのも無理ないですよ。双方、デザイナー同じですし。」

一同 「メメタア」

T 「あ、ちなみにワイは次男（作中におけるオリジナル作品（要は荒鬼除く）計算で）なんやで！妹もガンプラなんだったんやが…、どうしてああなったん…？」

FG 「え？すーぱーふみなさん（さつき調べた）って、フィギュアじゃないんですか？」

T 「一応…、アレでもガンプラ扱いやで…、ま、商品として出すときはガンプラちゃうやろ」

FG 「まあ、私という例がありますから一概にはそうとは言えないでしょうけどたぶんそうでしょうね。」

OO 「そうか…」

OR 「何思いふけってるのさ。ダブルオー。」

OO 「…ふーは。あ、…いや、考え事をしていただけだ。」

OR 「何そのため息!? 誤解招くよ!? あと、一瞬ため息ついでに笑いかけたよね!? オ○リンっぽく!?!」

OO 「私の名は駄無溜御…」

OR 「武者っぽく言ってもアレだからね!?!」

FG 「ところで、もうそろそろ、マスターが帰ってくる時間では」

T 「せやな。」

OR 「本当だ。」

OO 「では私達は帰らせてもらおう、さらばだ!」

T 「いや、先輩棚に戻るだけやないですか…」

FG 「たぶん細かいツツコミは野暮ですよ…トライオンさん」

T 「せやな…ま、よろしく頼むで! 雷(らい)ちゃん!」

FG 「何ですかそのアダ名…ま、いいでしょう。こちらこそよろしく頼みます…」

マスター(作者:以下M) 『ただいま』

T (来たようやな)

FG (…ですね)

ドタドタドタ…ガチャ

M 『ふー、疲れたー。ただいまー』

…これは、とある所に住むごく一般的…かもしれない男の部屋で起こっている…かもしれない、ちよつとした不思議な話である…かも?